



Sergei Prokofiev: Cantata for the 20th Anniversary of the October Revolution

aud 97.754

EAN: 4022143977540



[Asahi Shimbun](#) (2018.03.15)

Japanische Rezension siehe PDF!

ソ連に封印された2曲 「政治と芸術」とは

クラシック音楽は「不可侵の芸術の殿堂」に閉じこもっているわけでは、決してない。むしろその時点の政治状況と生々しく関わる。この事実をあらためて実感させる旧ソ連の作品の録音が出た。カラビッツ指揮のプロコフィエフ「十月革命20周年を記念するカンタータ」だ (audite 97.754、輸入盤)。長い亡命生活から故国に還った作曲者が、時の政治体制に寄り添い書いた40分以上の大曲。大編成の管弦楽が爆音で轟き、混声合唱はマルクスやエンゲルスのテキストを叫ぶ。サイレンが鳴り、アコーディオン合奏が疾走、レーニンの演説が飛び込む。スターリンによる大粛清が猛威を極めた恐怖の時代、この前衛的作品は共産党幹

部により初演を拒絶された。カラビッツは明快かつスピーディーな演奏で、この異形の大曲を見通し良く聴かせる。

一方、同じスターリン体制下で2度猛批判されたショスタコーヴィチ。名誉回復のためにやむなく書いたカンタータ「森の歌」は、ソ連体制への露骨な礼賛ゆえか、近年は録音が減っていた。パーヴォ・ヤルヴィは、削除されたスターリン賛美の歌詞もあえて復元して録音、昨年国内盤が出た(エラート)。

2曲は、いずれも体制に翻弄され、封印された運命を持つ。それぞれの新録音は、政治的文脈を冷静に客体化し、私たちに政治と芸術との関わりについて普遍の問いを投げかける。(矢)

片山杜秀、金澤正剛、諸石幸生、矢澤孝樹の4氏が合議で選びました。

◎特選盤 ○推薦盤 ♥個性派 ♣輸入盤